



危険は変化する

運転中の危険は常に同じではなく、刻々と変化します。

図1は、自車は交差点に接近し、左折するつもりで進行しています。前方左側の歩道を自転車が通行しています。自車が のときは、自転車が車道に出てこないかどうかには注意する必要がありますが、接近し左折しようとする の位置ではどうでしょうか。この時点では自車は自転車を追い抜いて前方の視界からは消えていると考えられますが、視界から消えているからといって危険も消えてしまったわけではありません。自転車の存在を忘れてそのまま左折すると、横断歩道を進行してきた自転車と衝突する危険があります。このように同じ対象でも、状況の変化に応じて危険の様態も変化するという点に留意する必要があります。

図2は生活道路を走行している場面です。前方左側を歩行者がおり、右側の路地から自転車が道路に出ようとしています。前方には見通しの悪い交差点があり、その先には駐車車両があってその付近に歩行者がいます。自車は交差点を直進するつもりで進行しています。

まず、自車が のときには、前方の歩行者に注意が必要です。また、右側の路地から自転車が出てくようとしていますから、自転車の動きにも注意が必要です。

この位置では、交差道路の状況が確認できませんが、車や自転車などが出てくるかもしれません。見通しの悪い交差点は徐行して進行する必要がありますが、安全を確保するためには、できるだけ一時停止をして、左右の安全確認をするのが望ましいでしょう。なお、徐行や一時停止をする際に、急な減速や停止をすると後続車に追突される危険がありますから、徐々にスピードを落として後続車に減速や停止の意図を早目に伝えることが大切です。

交差点を通過した の位置では、交差点の先の駐車車両付近の歩行者に注意が必要です。特に子どもの場合は駐車車両に隠されて見えにくく発見が遅れがちになります。したがって、駐車車両を通過するまでは徐行して進行するのが安全な方法です。

このように交通状況における危険は次々に変化していきますから、運転中は決して気を抜けません。常に周囲の状況をしっかり見て、起こりうる危険を予測した運転を心がけましょう。

図1

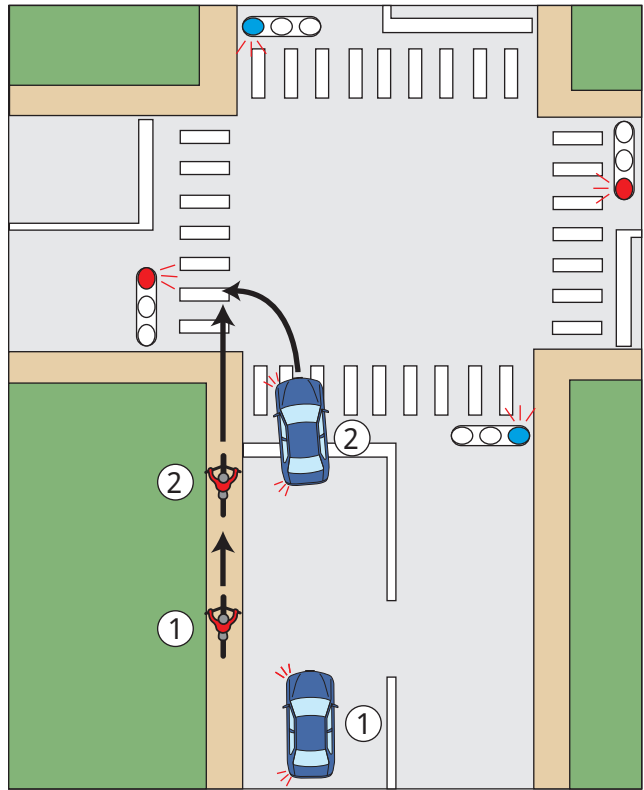
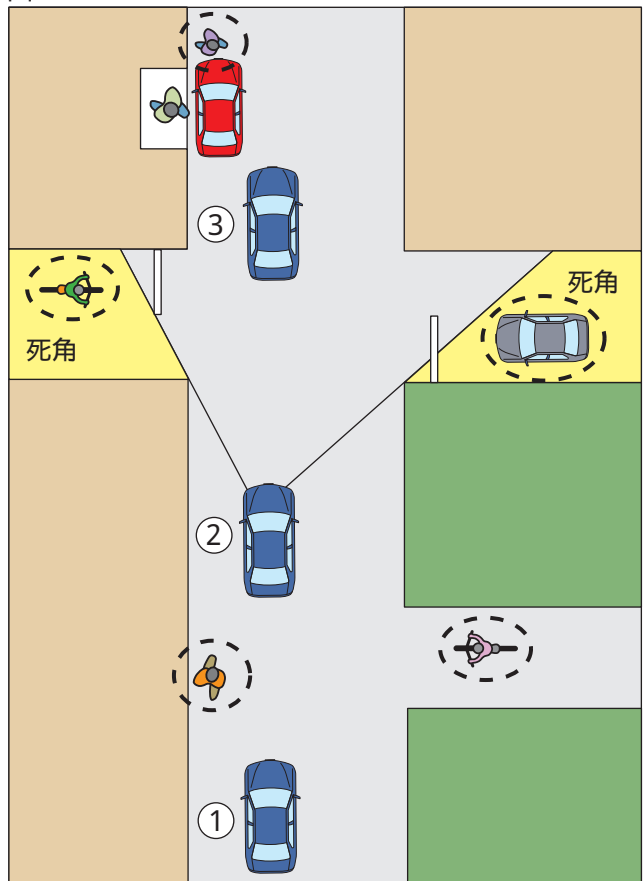


図2



「ご相談・お申込先」